

授業科目

日常生活活動学

【担当教員名】 大山峰生	対象学年	2	対象学科	作業
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	30

【一般目標：G I O】  
日常生活活動(ADL)および生活関連活動(APDL)に関連する基礎的・応用的知識について習得する。

- 【行動目標：S B O】
1. ADLの概念について説明できる。
  2. ADL支援システムについて説明することができる。
  3. ADL評価の目的を明示し、各評価の特徴を説明することができる。
  4. 基本動作の特徴を分析することができる。
  5. ADL評価に基づきADLプログラムが立案できる。
  6. 代表的疾患に特有なADL評価を説明でき、プログラムを立案施行できる。
  7. 福祉用具の役割についての重要性を説明でき、福祉用具を適切に選択することができる。
  8. 障害者に対する環境整備の方法について説明することができる。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO 番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	ADL概論 (ADLの基本的考え方、領域と分類・動作分析、評価から立案)	1	講義 大山
2	ADL支援システム	2	講義 大山
3	ADL評価	3	講義 大山
4	動作分析の基礎知識	4	講義 大山
5	ADL評価に基づくADLプログラム立案①	5	講義 大山
6	ADL評価に基づくADLプログラム立案②	5	講義 大山
7	評価の特徴とADLプログラム立案・施行 (片麻痺)	6	講義 大山
8	評価の特徴とADLプログラム立案・施行 (脊損)	6	講義 大山
9	評価の特徴とADLプログラム立案・施行 (RA)	6	講義 大山
10	評価の特徴とADLプログラム立案・施行 (その他の疾患1)	6	講義 大山
11	評価の特徴とADLプログラム立案・施行 (その他の疾患2)	6	講義 大山
12	福祉用具理論 (自助具)	7	講義 大山
13	福祉用具理論 (車椅子、装具)	7	講義 大山
14	住環境における調整、改良	8	講義 大山

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	日常生活活動(動作)	土屋弘吉、他	日本医師薬出版	2002年 6650円
	ADLとその周辺	伊藤利之、鎌倉矩子	医学書院	1999年 5900円
参考書				
その他の資料	プリント			

【評価方法】 出席、期末試験	【履修上の留意点】
-------------------	-----------